


# 入所型作業療法 実践の流れ

	入所前	入所時	入所初期	入所3ヵ月以降	ターミナル支援・退所
目的と役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設の特徴を踏まえて、対象者が生活しやすい環境を提供できるように調整する</li> <li>●与えられた情報からリハビリ支援計画をたてて、他(多)部署と共有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象者が安全に暮らせる生活環境を提供できるよう調整する</li> <li>●対象者らと共有しやすい目標を掲げたりハビリ支援計画の同意を得る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活環境が変化したことによる生活のしにくさを評価して工夫する</li> <li>●その人らしさを引き出す努力をして他(多)部署に発信して共有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●変化をしっかり捉えて新たな課題に対応する</li> <li>●作業療法場면을コミュニティとして活用する</li> <li>●家族や社会の一員としての存在価値を示す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象者の能力が最大限に発揮できる環境を整える</li> <li>●施設の特徴を踏まえて自分自身の役割を果たす</li> <li>●退所の場合、退所先に応じた情報伝達を行う</li> </ul>
実施項目	<input type="checkbox"/> 入所判定会議に参加する <input type="checkbox"/> 暫定的なりハビリ支援計画書を作成する 	<input type="checkbox"/> 暫定的なりハビリ支援計画書の説明・同意を得る <input type="checkbox"/> 移動手段の確保や食事形態の調整を行う	<input type="checkbox"/> リハビリ支援計画書を作成して説明・同意を得る <input type="checkbox"/> 作業療法場面で得た情報や評価を他(多)部署に発信する	<input type="checkbox"/> 定期的に評価を行う <input type="checkbox"/> 居室やフロアにおける生活状況を入手して、作業療法プログラムに活かす <input type="checkbox"/> 定期的にリハビリ支援計画書を作成する <input type="checkbox"/> ケアプラン担当者会議に参加する	<input type="checkbox"/> ターミナル支援についての話し合いに参加する <input type="checkbox"/> ターミナル期、自宅退所とも家族の意向を確認した上で調整する <input type="checkbox"/> 退所時サマリーを作成する <input type="checkbox"/> 退所前後訪問を行い、退所後の生活形態を調整する
チェックポイント	<input type="checkbox"/> 介護保険制度を理解していますか？ <input type="checkbox"/> 施設の中での作業療法士の役割を理解していますか？ <input type="checkbox"/> リハビリ支援計画書を作成しましたか？	<input type="checkbox"/> 居室等の位置や移動手段を調整しましたか？ <input type="checkbox"/> リハビリ支援計画書の同意を得ましたか？ <input type="checkbox"/> 適切な礼節を心がけましたか？	<input type="checkbox"/> 対象者の能力を評価して、安全な環境を調整しましたか？ <input type="checkbox"/> 対象者らと共有できる目標設定を行いましたか？	<input type="checkbox"/> 定期的に評価を行っていますか？ <input type="checkbox"/> 本人らしさが活かされるプログラムを盛り込んでいますか？	<input type="checkbox"/> 対象者らが望む暮らしを知っていますか？ <input type="checkbox"/> 地域のことや周辺施設のことを理解していますか？ <input type="checkbox"/> 申し送り先に応じて言葉を選んでいますか？
事前学習	<input type="checkbox"/> 加算について理解する <input type="checkbox"/> リハビリ支援計画書の様式を作成する <input type="checkbox"/> 情報をまとめて処理する練習を積み重ねる	<input type="checkbox"/> 居室の状況を知る <input type="checkbox"/> 移動能力と福祉機器の適応を知る <input type="checkbox"/> 食事形態や摂食・嚥下の評価と支援について学習する	<input type="checkbox"/> 基礎作業療法技術(生活する上での身体づくりと調整等)、基本作業療法技術(対象者の能力を引き出しやすい道具や環境の調整等)、応用作業療法技術(生活の現場での実践)、社会適応作業療法(個別で意味ある作業の実践・環境適応・環境調整・発想転換)について学習する	<input type="checkbox"/> ターミナル期に作業療法士ができることを知る <input type="checkbox"/> 住宅改修や福祉機器について知る	
心がけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護保険制度・医療保険制度に興味を持ち、知る努力をしましょう</li> <li>●作業療法の専門性を施設内の仲間に理解してもらっているか、振り返ってみましょう</li> <li>●他(多)部署の毎日の申し送りに参加して、対象者の情報を共有する機会をもちましょう</li> <li>●自己啓発を心がけましょう。認定作業療法士・専門作業療法士・介護支援専門員等の資格更新を考えましょう</li> <li>●記録の仕方を工夫して、量を増やすのではなく質の向上を目指していきましょう</li> <li>●他(多)部署と共有する書類は言葉遣いに留意して、コミュニケーションを図りやすい環境づくりをしましょう</li> <li>●専門用語を並べることが専門職ではなく、相手に合わせた言葉遣いを心がけましょう</li> </ul>				



# 入所型作業療法マニュアル

## Occupational Therapy For Life Field

### ◆はじめに◆

医療機関における入院期間は年々短縮傾向にあり、早い段階で介護保険施設を利用する方が多くなっています。それに伴い介護保険施設における作業療法の対象者は、急性期から慢性期、壮年から後期高齢者まで多岐に渡るようになりました。そして、必要最小限のセラピスト数は法律上変わってはいないものの、質・量ともに必要とされ、新人として入職することも増えてきています。本来であれば、重複疾患や加齢変化に合わせた対応、他（多）部署との関わりなど、豊かな経験が必要とされる領域かもしれませんが、経験の浅い作業療法士でも介護保険施設で不安なく適切な対応ができるように、本書を作成しました。

### ◆マニュアルの内容◆

1. 経験の浅い作業療法士を対象としています
2. 最低限おさえておくべき制度と背景が書かれています
3. 入所から退所までの作業療法士の役割が分かります
4. 日常業務における記録や報告書についてポイントが書かれています
5. 他（多）部署との連携を図るコツが書かれています

日々の業務にすぐに活かせるよう工夫しました。そして、事例をただの報告とせず、評価の視点、記録・報告のポイント、他（多）部署との連携の図り方等も含めて記載しています。

なお、介護保険施設においてターミナル期も対応するようになってきており、その場合、作業療法士として重要な役割を担いますが、本書では簡単に概略のみ述べることをご了承ください。

経験が浅くても、チームの中で作業療法士としての役割を果たしながら、生き生きと働けるよう、技と心を理解する一助になれば幸いです。

担当編集者 大瀧雅世

